

Jìn wú wǎng yě
進 吾 往 也すす わ ゆ
進むは吾が往くなり〈子罕第九〉う え だ あ つ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

昔、日本でもよく使われた諺に「九仞の功一簣に虧く」というのがあります。せっかく苦勞して積みあげた大きな築山も、最後の一盛りが足りなければ、すべてが無になる。これは儒教の經典『書経』に出てくる言葉で、原文は「为山九仞，功亏一簣 (Wéi shān jiǔ rèn, gōng kuī yī kuì)」(山を為ること九仞，功は一簣に虧く)。「仞」とは、人が両手を広げたときの長さで、身長とほぼ同じです。「九仞」とは15メートルくらいの高さでしょうか。「簣」とは人が担いで運ぶ小さな竹かご状の入れ物です。その一かごの土が足りないだけでも、築山は完成しない。「亏」とは欠けること、足りないことです。少しでも欠ければ完成とは言えません。したがって、そこでやめてしまえば、それまでの労苦はすべて水の泡となります。何事も手抜きは禁物、最後の一押しが肝心ということ。「功亏一簣」は今でもよく使われる中国の四字熟語の一つです。

これに類する言葉は『論語』にもあります。「譬如为山，未成一簣，止吾止也 (Pì rú wéi shān, wèi chéng yī kuì, zhǐ wú zhǐ yě)」(譬えば山を為るが如し。未だ成らざること一簣、止むは吾が止むなり)〈子罕第九〉。「止吾止也」とは、誰のせいでもない、自分の力が足りないからでもない。つまりそれは自分の意志でやめたからだ、という意味です。この一文の要諦は、完成できなかった原因を、実行する人の意志に在るとしているところです。これは恐らく弟子たちを励まして言った言葉と思われる。

別の所で孔子は次のように言っています。ある時、弟子の冉求が孔子に自分の力不足を訴えました。「非不说子之道，力不足也 (Fēi bú yuè zǐ zhī dào, lì bù zú yě)」(子の道を説ばざるに非ず。力

足らざるなり)〈雍也第六〉。先生の教えを実行したくないわけではありません。実行したくても私の力が足りないのです、と。これに対して孔子は答えます。「力不足者，中道而废。今女画」(Lì bù zú zhě, zhōng dào ér fèi. Jīn nǚ huà)」(力足らざる者は、中道にして廢す。今女は画れり)。力不足というのは、自分で見切りをつけて勝手にやめてしまう者のことだ、今お前は自分の力に限界を設けているだけだ、と。

冉求は孔門十哲の一人で、政治にも外交にも優れた能力を持っていましたが、やや内向的な所があったので、孔子はしばしばこのように言って彼を励ましていました。

さて話を「一簣」に戻しましょう。孔子はさらに次のように続けています。「譬如平地，虽覆一簣，进吾往也 (Pì rú píng dì, suī fù yī kuì, jìn wú wǎng yě)」(譬えば地を平らかにするに、一簣を覆すと雖も、進むは吾が往くなり)。一方、地面を平らにする際、ほんのわずかな土を掘り返したとしても、それは自分が実行した結果である。つまり、自ら進んで行った事実は、たとえそれがささやかなものであっても、それなりの意味があるということです。

ここで孔子は二つのことを言っています。この二つは互いに矛盾しているように見えますが、実は一つにつながっています。あるいは、一つのことを二つの側面から述べていると見ることもできます。何事も最後までやりきらなければ意味がない。一方、最初の一步を踏み出さなければ何も始まらない。だから始めることには、そのこと自体に意味があるということです。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)